

たくましいからだをはぐくむ

健康・体力づくり実践事業

―スポーツ健康課―

1 はじめに

児童生徒の体力・運動能力は、全国的に年々低下傾向にあり、本県の児童生徒についても、平成十四年度新体力テスト調査の結果では、ほとんどの項目で全国平均を下回っています。このような状況を踏まえ、国では、中央教育審議会から、「子どもの体力向上のための総合的な方策について」（平成十四年九月）の答申が出され、諸施策が進められていくところです。

県教育委員会でも、「やまなしの教育基本計画」の重点施策「たくましいからだをつくる体育・健康教育の充実」のもと、今後十年間で新体力テストの全ての項目を全国レベルに上げることを目標に、今年度より、「たくましいからだをはぐくむ健康・体力づくり実践事業」を立ち上げ、以下に示す取組を行うこととしました。ここでは、本事業の概要についてお知らせいたします。

2 本事業の目的

本県の児童生徒の体力と健康3原則（調和の取れた食事、適切な運動、十分な休養と睡眠）の実態を的確に把握し、結果を公表することによって、各学校・各地域の健康・体力づくりに対する関心を高めていきます。そして、各学校では、実態を踏まえた体育活動や健康教育の充実を図り、もって児童生徒の総合的な健康・体力の向上に資することを目的としています。

3 事業内容

(1) 新体力テスト・健康実態調査の実施

- ① 調査のねらい
児童生徒の体力や健康3原則にかかわる生活習慣等のより正確な実態を把握し、実践事業推進の基礎資料を得るとともに、体力・健康に対する関心を高める。
- ② 調査対象
公立全小・中・高等学校（全日制・定時制）の児童生徒約十万人
- ③ 調査内容
(ア) 新体力テスト（文部科学省）の実施。
(イ) 新体力テスト（表1参照）

④ 実施時期

毎年4～7月に各学校で実施します。

(イ) アンケートによる健康実態調査の実施。
(表2参照)

表1 新体力テスト 調査項目

テスト種目	体力評価	種目の概要
握力	筋力	握力計により左右の握力を測定。左右の記録の平均値。
上体起こし	筋力・筋持久力	仰臥姿勢から上体を起こす動作が30秒間に何回できるかを測定。
長座体前屈	柔軟性	長座の姿勢から前屈し柔軟性を測定。
反復横とび	敏捷性	全身を使った双方への反復運動の素早さを測定。(20秒間)
20m シャトルラン	全身持久力	20m間を一定の設定時間(設定時間は1分ごとに速まる)内に走り終えることを繰り返し行い、折り返し回数を測定。
50m走	スピード	50m直送路を合図によりスタートし、ゴールを駆けぬげるタイムを測定。
立ち幅飛び	筋パワー	立位姿勢から両足踏み切りで前方へ跳躍した距離を測定。
ボール投げ	巧緻性・筋パワー	小：ソフトボール(1号) 中高：ハンドボール(2号)を使用。オーバーハンドスローで遠投距離を測定。

※それぞれの項目の記録により、男女別10段階の得点が付けられる。
※その得点の総合計により、ABCDEの5段階の総合評価を行う。

表2 健康実態調査 調査項目

(中・高等学校用)

1. 運動部やスポ少、スポーツクラブに入っていますか。
 2. 学校の保健体育の授業以外に運動やスポーツをどのくらいしていますか。
 3. 学校の保健体育の授業以外で運動やスポーツをするときは、1日どのくらいの時間運動しますか。
 4. 朝食は食べますか。
 5. スナック菓子や炭酸飲料を食べたり飲みますか。
 6. 夕食は家族と食べますか。
 7. 夕食は家庭で作ったものを食べていますか。
 8. 1日の睡眠時間はどのくらいですか。
 9. 学校の授業以外で、1日どのくらい家庭学習をしますか。(平日)
 10. 1日にどのくらいテレビを見ますか。(ビデオ・テレビゲームも含む。平日)
- ※小学校は内容は同じで、表現はより平易になります。

⑤ 結果の処理及び報告について

集計データについては学識経験者に分析を依頼し、その結果は報告書等により各学校・各市町村に還元するとともに、県民にも公表いたします。概ね次の項目について報告する予定です。

- ア 新体力テスト
 - a 本県及び各地域別に各種目・合計点の平均値(男女別、年齢別、以下同様)
 - b 本県と全国との比較
 - c 過去からの共通種目(握力・50m走・ボール投げ)の推移と前回(H14)調査との比較
- イ 健康実態調査
 - a 全県・各地域の健康3原則にかかわる生活習慣の状況
 - b 各項目と体力(総合評価)との関係

② 健康・体力づくり二校一実践運動の実施

① 一校一実践運動の目的

各学校において児童生徒の実態をふまえた取組を充実・継続することによって、効果的に運動の日常化と健康3原則の習慣化を図る。

② 事業内容

ア 調査結果等から各学校の課題を明確にし、それをふまえた目標指標・数値を示します。
イ その目標の達成をめざし、次のI・IIを踏まえた最低一つの取組を決定し、適切な指導計画のもと、学校教育活動全体を通して継続的な実践を行います。

- | |
|--|
| I 運動の機会を提供し、積極的に運動に親しむ意識を高めること
II 健康3原則の徹底を図ること |
|--|

県では、各学校の取組の中から参考にすべき実践を還元していきます。

4 おわりに

- 子供たちの体力低下には、大人の外遊びやスポーツの重要性の軽視
- 生活の利便化による運動の機会の減少
- 子供たちの外遊びやスポーツを行う時間・空間・仲間
- 食生活の乱れや睡眠不足など生活習慣の乱れ

これらの課題の解決には、各学校が的確な実態把握のもと、家庭や地域と一体となった適切な指導が不可欠であります。本事業が学校の活性化を図り、これらの課題解決に大きな成果をあげることを期待しています。

平成17年度公立高等学校入学者 選抜学力検査成績調査結果報告

— 高校教育課 —

平成17年度公立高等学校入学者選抜学力検査を3月3日(木)に実施しました。全日制の全教科(5教科)を受験した者全員5,622人(男子3,049人/女子2,573人)の中から無作為に抽出し、調査した結果を考察しました。

なお、抽出人数は566人で、全体に占めるその割合はおよそ10%になります。また、全ての高等学校の受験者を対象に、その受験高等学校の受験者数に応じて、男女に関係なく抽出しました。

I 総合得点について

本年度の総合得点の平均点は262.0点で、前年度より2.4点下がりました。最高点は458点、最低点は42点で、男女別に比較してみると、男子は262.7点、女子は261.2点で、男子が女子より1.5点上回りました。平成13年度から今年度入試まで5年間の全体平均点は(図1)のように推移しています。各年度ごとの難易度に差があり単純な比較はできませんが、データからは低下傾向を読み取ることができます。

なお、各教科の平均点とその推移は(図2)のとおりです。

II 教科別調査結果の考察

○国語

言語事項の基本的な漢字の読み書きでは、よく学習が身につけています。しかし慣用的な語句の使用では誤答が目立ち、国語力が日常の言語活動に十分生かされていない傾向があります。

文学的文章や古典の心情理解では、的確な理解はできますが、状況を把握して根拠を示しながら表現することには習熟していません。概して自らの考えを進展させることは不得手です。

説明的な文章では、段落の関係を捉え、論証を理解することや、論理や事実を正確に踏まえた叙述には課題があります

○社会

基礎的・基本的な部分に関する知識や理解力、資料活

用の技能・表現力、思考・判断力は身に付いています。しかし、歴史的な分野での発展的な部分の資料活用能力や思考・判断力、地理的分野や公民的分野での複数の資料を総合的に分析し、活用する能力等に欠ける面も見られました。また、問題文が長い設問や資料を組み合わせて答えを導き出す設問の正答率が低いことから、文章や資料の読解力が不足しているのではないかと考えられます。これらが、平均点が低下した要因と推測できます。

○数学

基礎的・基本的な知識や技能については、十分な定着がうかがえます。しかし、日常の事象に関連付けた問題など数学的な見方や考え方が要求される設問や複数の領域の内容を総合して扱う設問での正答率が低くなっています。特に、動きや操作を伴う平面図形や空間図形を題材とする設問、位置関係の適切な把握を要求される設問の正答率がここ数年の傾向として低くなっています。また、図形の証明だけでなく、他の領域に対しても、思考過程を振り返りながら論理的に記述することに慣れていないようです。

○理科

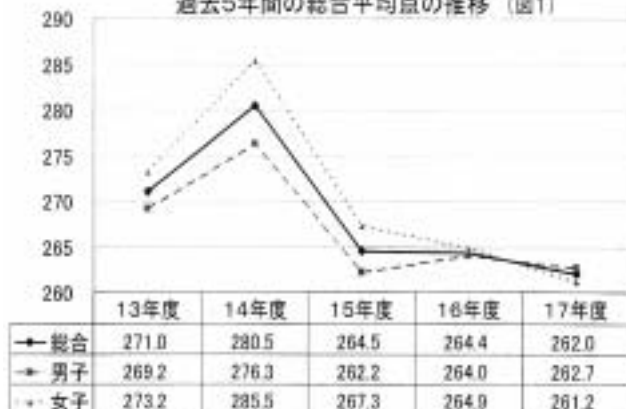
思考・判断を問う問題の正答率が極端に低くなっています。特に、いくつかの条件を組み合わせて総合的に思考する問題、イメージを理論的に思考する問題が苦手です。実験や観察の結果から疑問点を見つけ解決する力、基本的な法則や自然現象をより深く考える力などを身につけることが必要です。

○英語

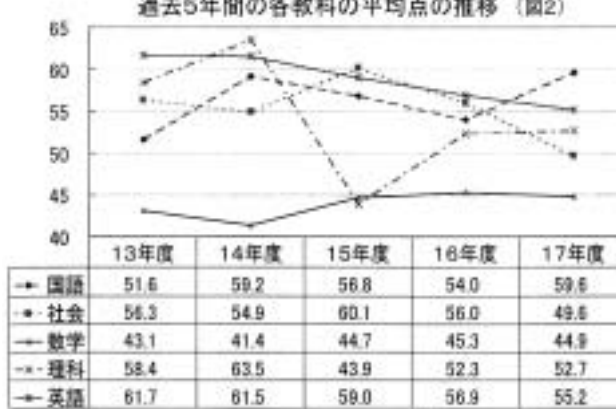
「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域について、基本的な英語運用能力を検査できる問題としました。

一般的には、基本的な能力の定着状況は概ね良好と考えられますが、重要なポイントをしっかりと聞きとったり、読みとったりすること、また、自分の言葉で的確に表現する力などについて、一層の向上が望まれます。

過去5年間の総合平均点の推移 (図1)



過去5年間の各教科の平均点の推移 (図2)



県立博物館の展示内容紹介⑥

―屋外にも広がる体験学習の場―

― 県立博物館 ―

博物館組織が正式に発足し、県庁内にあった博物館建設室から、笛吹市の博物館へと移り、はや一ヶ月半が過ぎました。現在十月十五日のオープンに向け、展示工事などの最終準備を進めています。すでに建物と外構工事は完了しており、屋外では様々な花が咲き乱れ、新緑がまぶしい季節になってきました。今回は屋外にも存在する博物館の展示要素についてご紹介し

ます。博物館の展示といえば、鑑賞（見る）型の展示をまずイメージされるでしょう。近年は体験型の展示も重視されており、県立博物館でも力を入れていることは以前ご紹介しました。工作、調理などの大がかりな準備を要するメニューについては、体験学習室も用意されています。

体験学習室の前には「つどいの広場」という屋外体験スペースがあります。体験メニューの中で、たとえば竹とんぼや凧揚げなどのように、屋内では体験しにくい遊びや工作については、青空のもとで楽しむことができます。大鍋による調理、どんど焼きなどの火を使った体験には、広場中央のファイアー・プレイスを使用します。広場は様々な屋外イベントの会場にもなります。

屋外には百五十種類以上、四万三千本以上も多種多様な草木が植えられています。実はこれらも体験学習の素材であり、博物館の展示物の一部と言えます。

植栽は江戸時代以前に渡来した種に限っており、我が国で古来、様々な形で人々に利用されてきた木々、草花が植えられています。草木に

広場中央に植えられたヤマナシの木。
博物館のシンボルの存在です。



は花期や利用法などを記した説明板が付されており、博物館の周りを一周するだけでも、山梨ゆかりの植物について学べるようになっていきます。

もちろん、より楽しみながら学べるようなプログラムも企画します。たとえば園内各所には『甲斐叢記』に記された「甲斐八珍果」がすべて植えてあり、敷地内のどこに植えられているかを探することで楽しみながら学べるようになっていきます。

現在の生活からはすっかりなじみが薄くなってきた、伝統産業に利用された植物も見ることが出来ます。漆（ウルシ）や、和紙作りに使用された楮（コウゾ）・三椏（ミツマタ）、養蚕に関わる桑などがあり、これらを使った体験学習も予定しています。「古代の畠」では、山梨特産の作物の耕作体験から収穫、郷土料理の調理までを体験していただきます。

敷地内の各所では、様々な草花が見られるようになってきました。また、調整池では、湿地性の草花も多く確認できます。人々にとって有益であったかはともかく、これらの草花も人間との長い関わりの歴史を持っていることに変わりはありません。すでに七〇種以上が確認されており、調整池や一部区域では除草せずに残して、観察会を行うことも検討しています。

調整池ではツバメやイワツバメが巣作りのための泥を採取している様子が見られました。チョウゲンボウの飛来や、カラスの巣作りも確認されています。今後さらに多くの動植物が集まってくるでしょう。

これらの草木や動物がしっかりと根付いて、博物館とともに成長していった欲しいと思います。



楽しいがイチバン

志村 雄二

“スタンダード”と呼ばれる曲があります。時代を越えて生き抜き、今も人びとに何気なく口ずさまれるメロディー。星の数ほど生み出され、流行に翻弄されながら、人々の心にたどり着いた一握りの音楽。スタンダードには、ジャズの素材として二通りの利用法があります。

「前提となる主題（メロディー）」を元に、様々な規則や経験に従って展開し、必然的な終結（結論）を迎えて完結させる、まさに王道の「演繹法」。もう一つはキース・ジャレットのスタンダース・トリオの活躍により一般化した（と私は思う）「帰納法」。これはリーダーを中心とした演奏者全員が、共通の規則性と、共通でない経験に裏打ちされた即興演奏を積み重ね、普遍（メロディ）を導き出して完結させるというものです。

後者の場合、イントロからエンディングまで、いつどこで普遍が飛び出すのか容易には予測がつかないため、聞く側にも相応の集中力と耳とが要求されることとなりますが、ぎりぎりまで絞り上げられたテンションが、耳慣れたメロディー出現の瞬間、一気に解放される快感が忘れられず、幾度となくライブに足を運ぶファンも多いとか。いずれにせよ、「癖になる」授業や行事の実現をめざし、さまざまな条件にも充分な吟味を重ねながら、何よりも「楽しいが一番」で、研さんを続けてゆきたいものです
(田富南小学校)

らくがき

「出会い」とは、不思議…

渡部 一司



「ひとつの出会いからつながりができるんだな」と最近つくづく感じている。先日、高校総体の会場で、葦崎高校・北杜高校の男子バスケットボール部の生徒に会った。彼らは、ストレッチの最中であった。私に気がつく全員がずっと立ち上がり、「こんにちは」と私に挨拶をしてくれた。その中には、勤務校である葦崎東中学校のOBもいた。私も「こんにちは」と負けじと元気よく答えた。今日も生徒からエネルギーをもらった。「先生、元気？」と声をかけてくれた生徒もいた。話が前後するが4月、私が新採用の時にお世話になった先生が、校長先生として本校に赴任された。

3年間担任をした息子の保護者が教頭先生。期間採用の先生は、私がよく通う温泉のサウナで話をする人の息子。来年度の教育実習生が学校に挨拶にきた。私のクラスで巣立った生徒だった。入学式で「お、渡部。」と声をかけられた。中学の同級生の声である。「今度、うちの娘が世話になる。よろしく」と。

今年の1年生には同級生の保護者が、10人以上いる。葦崎東中に赴任して、5年も一緒にの学年で仕事をした仲間が、今年度から妻が働いている学校に着任した。人間ひとりで生きていないんだな。「ひとつの出会いで何かがつながっているんだ。不思議だ」と実感する。そんな人たちから助けやエネルギーをもらい、今の自分があることに感謝。

(葦崎東中学校)

夏季企画展「弥生時代が見える！ 山梨の遺跡と弥生時代」

会期 6月11日(土)～8月28日(日)

県立考古博物館

江戸時代から時代をさかのぼりながら、山梨県の遺跡を時代ごとに紹介していく企画展の弥生時代編です。県内の考古資料を中心に、写真・イラスト・模型などを使いながら弥生時代の人々の生活の様子を伝えます。

弥生時代は、灌漑による水田稲作を中心とした生活が始まった時代で、水田稲作をはじめ、鉄器の鍛造、青銅器・ガラスの鑄造、機織りなど、大陸から多くの技術がもたらされました。県内では、中央自動車道の建設に伴い発掘された金の尾遺跡(甲斐市)の集落跡や、甲斐風土記の丘・曾根丘陵公園内に保存・整備されている上の平遺跡(中道町)の方形周溝墓群がよく知られています。また、下大内遺跡(北杜市)出土の大型の壺や、身洗遺跡(笛吹市)出土の農具、岡遺跡(笛吹市)出土の容器形土偶(写真)は、本県の弥生時代の稲作や墓制・信仰を知る上で貴重な資料として、県指定文化財となっております。一方全国的には、理化学的な年代測定法の進展によって、これまで紀元前4世紀頃から紀元後3世紀中頃までの約六〇〇年間続いたとされる弥生時代の開始年代が、一気に五〇〇年もさかのぼることが発表され注目されています。同時に、巨大な建物や祭祀のあり方など、従来の弥生時代のイメージが大きく見直されており、これらの動向とも比較しながら、弥生文化の地域色を考えていきます。



容器形土偶 (岡遺跡)

「学校支援ボランティア活動」を通して 勝沼町立勝沼小学校

本校では、保護者・地域の方々が授業を参観する受け身的な発想を転換し、能動的に係わっていただく参加型のシステム（学校支援ボランティア）を積極的に導入しています。

その中でも図書ボランティアは、司書担当が不在の午前中を十数名のメンバーが当番制で図書館運営の支援をしていただき、5年目を迎えました。

また、年度始めの樹木消毒・農園耕作といった環境整備の環境支援ボランティア、家庭科・生活科・音楽・図工・保健・総合的な学習の時間・道徳・パソコン・書道・スキー・スケート・水泳等の学習支援ボランティアを募り、専門性を生かして子どもたちにかかわっていただいています。

昨年度の延べ人数は、200人程になります。支援活動の中で、月に一度の「ぬくもりタイム（各学年ごと年8回の担当者による朝の読み聞かせ）」では、子どもたちの読書意欲を喚起するとともに、担当した保護者も「子どもと共に成長できました。」「学校の壁が低くなり先生方も親しくなれてとても有意義でした。」との感想を寄せていただいております。

今後も「保護者・地域住民の方々の参加しやすい場づくり」「子どもたちの豊かな学びの環境づくり」「保護者・地域住民との人間関係、信頼関係づくり」といったねらいを明確にし、さらに多くの方に「学校支援ボランティア活動」に参加していただき「開かれた学校」づくりを推進していきたいと思っております。



「ぬくもりタイム」(朝の読み聞かせ)



「家庭科のミシン指導」(学習支援)

「総合学習（茶道・陶芸体験）」について 巨摩高校

本校では3年次の総合学習で茶道と陶芸を実施しています。日本文化に触れる貴重な機会であるだけでなく、学習指導要領の主旨にあるように、生徒達が「自らの生き方・考え方を学ぶ」高校生活最後の授業として、かけがえのない時間となっています。茶道は栗林宗房先生（礼儀においては甘えを許さない熱心な指導）、陶芸は美術科教師（陶芸の初歩からの丁寧な指導）が担当です。

4月の軸は「一期一会」、花は山藤・岩鏡。この時や人生の出会いはいは2度と繰り返すことのない1回きりのものであり、今を一生懸命生きる事が大事である等の説明に生徒達は耳を傾けます。

季節感を大切にする茶道の設えも毎回楽しみですが、陶芸で作った茶碗でお茶を飲むのも楽しみとなっています。

1年間、お菓子・お茶の頂き方や作法を学ぶ中で、一服のお茶を飲む過程には相手に対する思いやりや感謝の気持ちが溢れていることを知り、道具には作成者の思いがあることに気付きます。

現在、社会では自他の区別や礼儀が欠如（公共意識の希薄化）していますが、この学習の1つの狙いは礼儀作法にあります。本校では、生徒達がこの授業で学んだことを活かし充実した生活が送れるよう願っています。



(茶道体験)



(陶芸体験)

山梨県総合教育センター

学校教育を支援する確かな情報発信源として

研究開発部

研究開発部は、本センターのテーマである「学校教育を支援する、確かな情報発信源」として、学校教育の推進と充実に寄与していくことを目指しています。平成十七年度の研究は、学校の現状に即した今日的教育課題を把握し、各種調査や指導計画・指導方法等の研究・開発を行い、課題解決に向けて取り組みます。そして、研究成果の発表や資料提供などを通して学校教育を支援する、確かな情報発信を行いたいと考えています。具体的には、主事研究、特別研究（プロジェクト）、一般留学生研究などを通して実現を図っていきます。

国語力向上は今日的な教育課題

子どもたちを取り巻く社会は、国際化・情報化の進展など急激に変化し、価値観も多様化しています。このような時代にあって、子どもたちに、主体的に考え、判断し、変化に柔軟に対応できる能力が求められ、これらの能力の基盤となる国語力の育成が重要課題となっています。

文化審議会は、文部科学大臣の諮問を受け、平成十六年二月三日に「これからの時代に求められる国語力について」答申し、国語の重要性や国語力をも身につける方策を提言しています。また、本県でも、やまなしの教育基本計

画・学校教育指導重点の中で『確かな学力と伝え合う力を育てる国語力の向上』を重点施策として取り上げています。さらに本センターの調査結果から、今年度、校内研究のテーマを国語力の向上に関するものに設定している学校が多くなっています。このことから、国語力の向上はまさに今日的な教育課題と言いうことができます。

本センターにおける

「国語力向上」の研究

研修主事が一人一研究を行う主事研究では、昨年度の「国語力向上」の研究を継続・発展させることを基本方針とし、今年度の体制づくりを行いました。「国語力向上」研究グループのメンバーを倍増し研究体制を強化しました。研究分野のスローガン「学校現場で活用してもらえぬ研究」を目指し、昨年度の調査研究を基に、各教科等で学校現場の授業実践に結び付く研究を進めています。

また、研究開発部を主体に行う特別研究プロジェクトでも「国語力向上」の取組を始めました。県内外の先進校における国語力向上に関する具体的実践などを収集し、実践的資料として整理することを計画しています。十一月頃には、成果を学校現場に情報提供し、国語力向上の実践に寄与してい

たらと考えています。

国語力の向上特別研修会の

お知らせ

特別研究プロジェクトの一環として、次代を担う子どもたちの国語力の育成について、金田一先生を講師に招いての研修会を、次のとおり行います。

すでに、各学校・関係機関には案内を送付させていただきましたが、申込みなど詳細につきましては、案内をご覧くださいと思います。

演題

「ここちよい日本語」

〈児童生徒の国語力を高めるために〉

講師

杏林大学教授

金田一秀穂先生

日時

平成十七年六月二十五日（土）

受付 午後一時三〇分から

講演 午後二時

場所

山梨県総合教育センター

大研修室

※問い合わせ

総合教育センター

研究開発部

☎ 055-262-6180

たくさんの方の御参加をお待ちしております。

富士山についての情報の探し方

山梨県立図書館

富士山についての調べ方マニュアルです。これを参考にして必要な情報を上手に入手してください。

1 基本的な情報源で調べる

『世界大百科事典』（平凡社）、『三省堂日本山名事典』（三省堂）、『山梨百科事典』（山梨日日新聞社）、『静岡大百科事典』（静岡新聞社）などで、全体像や、知りたいことの概要を把握します。

2 キーワードをピックアップ

調べたいことに関係するキーワードを、自由にあげてみます。

(例) 富士山と災害：富士山、火山、噴火、溶岩、雪崩、雪代（ゆきしろ）

富士山と宗教：富士信仰、富士講、長谷川角行、御師（おし）、浅間神社など



(富士山の資料がある書架)

3 図書を探す

(1) 資料検索システムで調べる

書名・著者名・件名などにキーワードを入力して検索します。インターネットで検索する場合は県立図書館ホームページ (<http://www.lib.pref.yamanashi.jp/>) の「県立図書館蔵書検索」や「県内総合目録検索」(県内公共図書館の蔵書検索)、「大学等横断検索」(県内の大学の蔵書検索：<http://opac.lib.yamanashi.ac.jp/matual/matual.html>) などで検索してみましょう。

(2) テーマごとの書架で探す

宗教、歴史、火山、気候、植物、動物、写真の撮り方、文学など、それぞれのテーマに関する書棚で直接資料を見てみましょう。博物館の展示図録なども参考になります。

書名	著者名	出版社	出版年	内容
富士山 (講談社カラー科学大図鑑)	佐島群巳	講談社	1981	富士山全般についての本。ふりがな付。
富士の自然 (カラーブックス434)	長田武正	保育社	1978	地質、植物についてよく解説してある。
富士山自然大図鑑	杉野孝雄	静岡新聞社	1994	写真が見やすく、読みやすい本。
富士山 その自然のすべて	諏訪彰	同文書院	1992	地質・火山についての記述が多い。詳しいグラフなどが載っている。
富士山大ばくはつ	かこさとし	小峰書店	1999	富士山の過去と未来の噴火について紹介している。

4 新聞記事を探す

縮刷版やマイクロフィルムで関係記事を探してみましょう。当館では山梨日日新聞社のデータベース「山日News」や朝日新聞記事データベース「聞蔵 (きくぞう)」で検索することもできます。

5 雑誌記事を探す

資料検索システムに特集記事名が入力してある雑誌は、キーワードから探すこともできます。朝日新聞記事データベース「聞蔵」では週刊朝日 (2000～)、AERA (創刊号～) の記事の検索ができます。県内図書館の所蔵雑誌は県立図書館ホームページの「県内図書館雑誌・新聞一覧」で分かります。

6 インターネットで情報収集

「富士山ボランティアセンター」(<http://www.eps4.comlink.ne.jp/%7efujisan/>) や「山中湖大図鑑」(<http://cello.jp/yamanakako/>) などが参考になります。

代表的な検索エンジン「YAHOO JAPAN」などでキーワードを検索してみるのもいいでしょう。

山梨の文化財

県指定有形文化財(考古資料)

古柳塚古墳出土品六十八点 (笛吹市)

(平成十七年五月二日指定)

古柳塚古墳出土、馬具類



本資料は、大正七年に開墾中に出土したものと伝えられ、出土後程なく一括で写真に収められたが、行方が分からなくなり、昭和五十年発行の『八代町誌』においてその写真が収録されるにとどまっていた。こうして本資料は、長らく所在不明のまま経過していましたが、偶然にも土地所有者の蔵に保管されていることが判明し、近年、その内容が明らかになり話題となりました。

現在、古柳塚古墳は残存していませんが、発見された出土品は、この古墳の副葬品とみられるものです。これらの出土品には武器・馬具・装飾品等があり、いずれも古墳時代の六世紀末〜七世紀初頭に位置付けられる重要な遺物です。その中でも、写真に見られる壺鐙・響等の馬具類は、特に際立つものです。馬具とは騎乗するために馬につけた装着品等を指し、発見された資料は全般に高い水準の技巧が施されるなど、古柳塚古墳の位置付けを考える上でも貴重な資料です。

これらの出土品の中には、当時の最高水準の技術が見られ、奈良県藤ノ木古墳に匹敵するという意見もあるほどです。

主な行事予定

県立図書館

新収蔵山梨県関係出版物展

6/10〜7/31

県立美術館

特別展

「絵になった富士山」

6/18〜7/24

「ジャン・コクトー展」

8/6〜9/7

県立考古博物館

上級者土器づくり教室

7/16〜8/6

夏季こども学習会

7/23〜8/7

県立文学館

山梨の詩歌にふれる

7/1〜9/28

表紙を飾る



甲府市立西中学校
3年 岡本典子

題材名：～動きのある人物～

作品名：「緊張の一瞬」

＜作品の紹介＞

大好きなソフトボールをテーマにつくりました。打席に立ったときの緊張した自分の気持ちや、ボールを打った瞬間の自分の姿が表せるように、実際にポーズを何回もって研究しながらつくっていききました。

〈指導者：樋口文雄教諭〉

「声かけ あいさつ」みんなで実践を!!

◆ 教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。
アドレス：kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX：055-223-1744